



里見八犬傳

第十輯

卷之十

13  
709  
58



門 13  
號 709  
卷 58



治三六年  
十月九日  
購本

南總里見八犬傳第九輯卷之十

東都 曲亭主人編次

第一百十回 反間の術妙椿大江と遠さく

妖書の孽仁妙真小辨別を

却説大江親兵衛の濱路姫の鬼病のよしを聞きしより毫も礙議せし隨御守城の勤  
番と自餘の三士 干景能 小儘 小邊 小身装として立申しとせ折小焼雪與四郎小情語く  
かろ。知るるごとく稲村より恣猛小召させぬ我青海波小乗走りて多那里へ参る。公頼然  
あつる御用あつるに實不出て來ぬ因て憑心ひたしてあれ我身富山と云ふより憶ふを統緒  
暇をけれのまゝ大母 妙真 小對面を今番稲城へ参りてもそが依留置れん孰是も亦知るべし  
らん更ふ又等も不樂く思われ我豫寫措けし消息一通茲小在り翁瀧田へ退る日這消  
息と大母不見せよと告て尉めあひ目今火急の君命と稟て言私及及び忠臣の本意小

八犬傳九冊卷十

文藝堂藏

あなごも尚人並俸禄と定めて賜る身あわねは徳より事許されん所願なるあひ  
 七とあるさう消息を合ふと渡與まを與四郎を受收めし趣あるさう先度の  
 夜約と同かね在下の和君の馬附に走るも益るん既小舟斜る在下の歩行多暮  
 路路で歌店に就て明日稲村へ参りぬ快々さあひひの親兵衛再議及至既小  
 逸時良干景能們別と告て伴當のいそを皆悦雪に従て徐ふ来よと分付て單青  
 海波のうら騎りう館山の城とる程未の五刻の介程の親兵衛十數里の路程を繞  
 時許不騎走りて酉の五刻の左側を稲村の城の東へ馳て本番の甲乙に就て任  
 えあひぬ義成主の着到の神速を與言せ遠侍を夜飯と賜り馬を厩役人預け  
 とて這宵親兵衛と身邊近く召下せ對面然面宣さう汝館山在城してよその地  
 無異さう既その時をの松思ふ野今番猛可召来今所要の矢使と兼て如番の樂  
 遣る菅屋八郎守つん柳濱路姫が病着の物怪の祟とて醫藥のりう驗者の祈禳も

今小の效驗を見せ汝の武勇世に類き且那仁字の靈玉と感得るよりまあれは件の物怪  
 鎮人事汝のあつた人もの我も思ひ望しうぬ所行も今宵より濱路が臥  
 房の宿直と試て勿論汝らも見ぬ十六七の後生れも実の九歳の童るを然奥より  
 海門の通夜と看病の婦女輩と共侶侍も忌嫌小夜も多人の談詰もあつた  
 麼との美とせんやと亦他事もく少く親兵衛の困る面色も稟を御談美りひ  
 ぬ千軍萬馬の大敵の打向とる御用を思ひの隨不克ぬとも面目もひん然類あつた  
 煙の如く影の似く眼も見えても多し捕らぬ物怪をふふと輒く對治せられぬ術  
 為のいとも推辭せんぬ最も惶し御意不随ひも勿論ひも姫上の死枕方一夜と共侍  
 りぬの影護を争何んせ御病牀の次の間を宿直はるゆとよと我成王の命開の左も右  
 ものいも就て又一條の祈切あり汝が持靈玉と濱路が臥房の篋子の下る土中深く埋  
 いその效速也後々も障尋ると異人の教誨ありとすゆれも婦女毎の告誡して正照

据あるふねに半信半疑決断する。これに御景館山の元黨が汝の玉の光を撲れ。轉倒氣絶  
あつてと受けし所以より。あつては汝濱路が枕方近づくを欲せし權且玉を我に貸ね美  
子の下埋措てその效も亦試せん然りとて件の土中久し埋措んとあつて那物怪の對治せし  
且て濱路が病着瘵るを會ひて返さず。這一椿事の我意あつて婦女毎の云々と願へ  
とても大人氣をと思ひのう談きる。苟且も靈玉と土中埋措れり。數りの借りし  
あつて然るに坐席と擇み縦濱路が枕方とも便宜儘くと宿直とせむ。これ親兵衛阿  
とるるに答難く沈吟する。肚裏と思ふ。あの靈玉を我身と俱に親の胎内在り。一日より自  
然と得る寶貝を。壯鹿の角の束の間。人へ貸せぬ。君命も争何せん。救世の  
枕方宿直と外様の譏誚を受ん。優を宛め。尋思する。頭を拾て稟を。御説の  
如く。這靈玉の生れ。日より片時も身と放つて。祖母と年来御扶持の下。召置る御恩を  
思へ。献つとも惜く。况一霎時の御用を。姫上瘵るゆゑ。埋措るゆゑ。兼諾する。頃

掛る護身裏と用は。玉を合ひて懐紙に載て。焚くまわると義成を。受りて後方の  
は。近習の燈燭を兼て。件の玉を。左の右ま。一霎時見て。奇妙の美玉果と  
自然と仁字の奇也。と嘆賞する。鼻紙臺の香匣に。壯衣の臺を。登りて。奥の老黨  
其申と。遠く召して。玉を埋る事由を。解して。宣ふ。這個玉を。香匣と共。一箇の靈玉納れ  
又その靈を。瓶に藏りて。濱路の臥簾の下。土中と穿る。こゝに。許す。今宵速に埋させ。世  
ふ。固と。奇に。貨する。事。と。砕く。事。と。做果る。濱路が。病牀に。外移して  
埋る。折れ。我を。報よ。我を。かく。見ん。秋。合。者。取。合。快。と。分。付。て。件。の。玉。を。遠。與  
あ。多。の。奥。の。老。黨。の。果。退。り。の。登。時。義。成。主。の。又。親。兵。衛。の。宣。を。目。今。汝。を。王。を。土  
中。埋。る。折。れ。我。を。かく。指。揮。と。せ。然。る。心。の。事。權。且。遠。侍。の。退。り。長。途。の。疲。勞。を。休。ら。へ  
よ。事。救。正。の。濱。路。が。臥。房。の。邊。案。内。の。あ。ん。の。折。宿。直。と。せ。か。と。叮。寧。の。課。を。親。兵  
衛。の。終。を。稟。を。遠。侍。の。退。り。の。程。義。成。の。天。人。吾。孀。前。今。宵。大。江。親。兵。衛。が。一。騎。館

山の城より來り事及守の所望不儘と那靈王之位まるを御異人之教とく埋措ふらまる也  
見不信ずあらひて之勢大きなるに馳て專婦使をもと親兵衛の果子と賜り又美酒と饋數種賜ふ  
て疲勞之耐えぬ程の夜に丑三時候にまりけり浩然甲夜の靈王と預けれる奥隸の老當出て  
來り親兵衛のち對ひて大江生ま徒然の心願生が奉りる靈王の埋果と館の死ならずとせず  
まりて亦南にけれ心安く思ひ入りて五の君既前集の事をのん臥草と故のこ小做りなり今宵宵  
より身近う宿直と仕せよとの御詔之卒の案内とせんとの親兵衛異議もく開き奉り  
ゆらかりるか參りの心と答て馳て共侶の濱路姫の病の狀の次の間にまりけれ給事の老女出迎て  
今番の夜救ふ勞ひまらまる當下親兵衛の濱路姫の病惱輕重及物怪の障の有無と云云と尋ね  
れ老女答て姫上の黃昏時候の帝一と鬼鬼れまあらひの身の館山上の末まとと後の  
然るゆえに口今睡とせぬと答る間に看病の通夜と侍婢等們の名次親兵衛と物の  
隙より偷看て功々其聲と手三可まり出て親兵衛の對面をけり左右を程短夜まり

與四郎の第  
五輯の世  
本輯の世  
至て詳し

窓の隙より亮且之庭の雀の聲を時候親兵衛の暇と賜りて又真隸の甘茶甲引りて罷出り給  
館の内に多編子合とて休息所と定めれ這里で早飯となるを豫臥草も儲てある書の勤務  
もる身を權且睡臥ぬと給仕兒們の薦まるく馳て枕を就まり程の短夜與四郎の  
の目己の五刻過る時候親兵衛が伴當の後れると斯俱と稻村の城をまりけれ堀内藏人負  
仍東六郎辰辰相奉りて問注所に召登り則國守の仰を傳て富山以來の責とて白銀五十枚を  
賜り龐田退り宅眷們を慰めて在留と一月俸の餘の賜り大田小文五が親文五兵衛の例を  
のて那里で宛仍且且妙真不對面の折今番大江親兵衛と館山より召來とて當城に在勤の  
事の趣と告知り宜く他を慰むべと仰示まるゆえに與四郎の大きなる君恩と拜し賜り受け  
て退り親兵衛と尋ねる他の昨夜の宿直を疲勞れて天明て後に睡不就ぬゆえに覺悟し  
えり敢又敢又敢又馬を昨日の消息と遞與されてのれゆえに所果るゆえに這里で時を程を要す異  
日又來て對面せんと思ひ不ければ親兵衛の伴當と留置れる身の伴當をと領て龐田を投げるを死

け。是より先、義成主田税力助逸友と使价とて、瀧田の城遣て大江親兵衛と召させ事那  
 玉の夜勤の事。且親兵衛が宿直せよ。昨夜の物怪頭れを濱路姫の丙夜も睡せぬ  
 日までも送る死父義実主へさあはさぬけり。介程親兵衛の未牌の時候に起きて與四  
 郎が来り。且白銀五枚を賜りて休息の爲瀧田の城遣されりと傳へて飲ぶと斜に馳て  
 浴湯に沐梳り夕饌を賜る程に君侯成及夫人前より宿直衣と平生服と必用の調度三  
 皆具を賜りければ親兵衛の寵恩の濃きを畏れてその飲ぶと稟せぬ姑且と義成主の親兵  
 衛を召して昨夜の宿直直ぐとその功あり飲びと云と宜い方義通御曹司の舎第次  
 丸と共に嚴君の左右侍りありて親兵衛が支度毎の功ありて夜寝美のりて茶を賜り菓子成  
 賜り過り館山事とて譚りて奥の親兵衛の長日の園を管掌に慰められる面  
 目ありありと思ひける。却説その日暮ければ親兵衛の又濱路姫の臥房の次の間宿直と  
 する今宵も物怪頭れを濱路姫今朝よりと面色も光澤ありて心地清々覚るると白粥を

食の西番及び吾孀前飲びて今宵大江親兵衛と夜勤の女房們小東西を賜へ  
 ちと。午よりの議を命せられ赤豆飯着湯物剛鬚魚の塩炙石決明の膳膳京濱防風醋  
 茹蒸菓子餅など五六箇の折櫃を装做して甲夜に賜りければ婢妾們的飲ひて先親兵衛の  
 分ちて薦め各々賜りて芽出た宵と思ひける。侍りければ親兵衛の暮るより旦るまで端然  
 として外觀もせぬ婢妾們が稍押れてのい被るもさぬわねと練ふ心とて方の要るれば這方  
 より。のいさるりけり。次の日瀧田より老侯の使として登崎十二郎照文を稲村の城来て筒  
 様筒様と御意と傳へ親兵衛が夜勤の旁らり。銘茶と乾菓子兩壺を賜り且五の君病  
 三石の稍瘥せぬ飲ひてさあはさぬ義成のさあはさぬて昭文と召させ老侯の安否と尋  
 ね親兵衛小東西たまひせし飲ひを云とさあはさぬ語の次物怪退散ある不飲思ひ倍を  
 濱路が容體佳々と解示して是さう靈玉と親兵衛が奇功は是筆のよと嚴君の詳ふ  
 稟せとて暇を賜ひければ照文の退きて又親兵衛の對面の折妙真の恙もさう再會を

まろとらうのまろとらう。おんべあ。このへや。まの  
俟事の情又與四郎の文五兵衛が舊子舎と賜りて音音と媳婦們と兩個の孫と俱小住  
へ妙真を置く舎と檐と比へ僅小壁と隔るの。且又送文加れ詞敵のまろとらうと告知  
るどせ。親兵衛の心おちて左中も右中も我二柱の君恩と稱へ。今番又思ひけり老侯より  
東西賜せ。あの秋ひを京へおの姫上り。痊可である。折暇とゆつて見参を入る。おの  
照文のる。別を告て伴當と俱して瀧田へ退りけり。是より。濱路姫の病着け。平地へ親兵  
衛が宿直せ。統五六日の程。三ひの饌。生平おの。氣力の日毎。清き。おの。言敷を  
經る。おの。浴湯結髪。おの。無籠て。親兵衛。對面。おの。只他。おの。  
折。おの。聲。おの。遮。莫。那。物。怪。おの。夢。おの。宿。真。の。醫。師。與。隸。の。甲。おの。夜。勤。を  
免。おの。親。兵。衛。おの。初。の。夜。の。次。の。間。おの。侍。おの。然。おの。親。胞。兄。弟。達。おの。  
給。事。の。女。房。們。の。おの。怒。おの。勇。おの。書。おの。雙。陸。歌。骨。牌。貝。合。おの。長。日。の。徒。然。哉  
慰。おの。夜。の。亦。物。之。讀。おの。女。房。源。氏。物。語。之。讀。おの。听。おの。其。も。甲。夜。の。程。の。也。約。莫。二。更。の

左側より。曉るまで。熟睡して。一ひの覚ゆる。婢妾們的夜勤も。大くお退けて。枕方お侍る。二箇おま  
ろ。其。心。お。俱。お。睡。て。曉。る。夫。知。ら。ぬ。間。お。の。介。程。お。親。兵。衛。の。宿。直。せ。七。夜。ま。り。  
五の君既小癢の。在。お。も。お。更。お。の。お。暇。と。賜。ら。ぬ。自。由。お。の。お。勤。お。の。夜。守。る。  
向。お。の。氣。倦。心。疲。れて。連。お。の。恥。と。催。せ。勉。め。て。睡。と。思。へ。堪。お。の。臂。近。お。の。雙。陸。局。と。寄。  
ま。て。面。杖。衝。て。寝。る。も。知。ら。ぬ。一。更。時。打。盹。と。けり。然。又。義。成。王。も。吾。孀。前。も。息。女。達。の。中。の。  
濱路姫。おの。時。暴。跡。鳥。の。殃。危。也。往。方。も。知。ら。ぬ。おの。世。お。の。人。と。思。ひ。絶。て。年。來。お。の。過。おの。料。お。の。蜚。  
崎。照。文。が。甲。斐。州。も。俱。お。の。若。せ。て。這。地。お。の。還。り。おの。の。鍾。愛。自。餘。の。七。個。の。姫。上。達。より。八。入。お。の。増。お。の。慈。愛。  
おの。の。通。る。の。親。の。情。おの。今。番。物。怪。の。祟。也。命。危。か。り。比。不。測。おの。異。人。の。示。現。あり。物。怪。の。箇。様。々。の。  
怨。靈。と。ゆ。え。大。山。寺。も。衆。徒。を。課。せ。名。鬼。が。怨。靈。解。脱。の。為。水。陸。の。好。事。と。執。り。初。め。且。天。江。親。  
兵。衛。の。館。山。の。城。も。石。口。本。さ。て。宿。直。と。命。おの。の。終。物。怪。鎮。り。て。濱。路。姫。の。病。惱。平。死。  
おの。の。隨。即。洲。崎。明。神。の。社。及。役。行。者。の。石。崖。富。山。多。峯。上。の。觀。音。伏。姬。の。墳。墓。賽。願。の。使

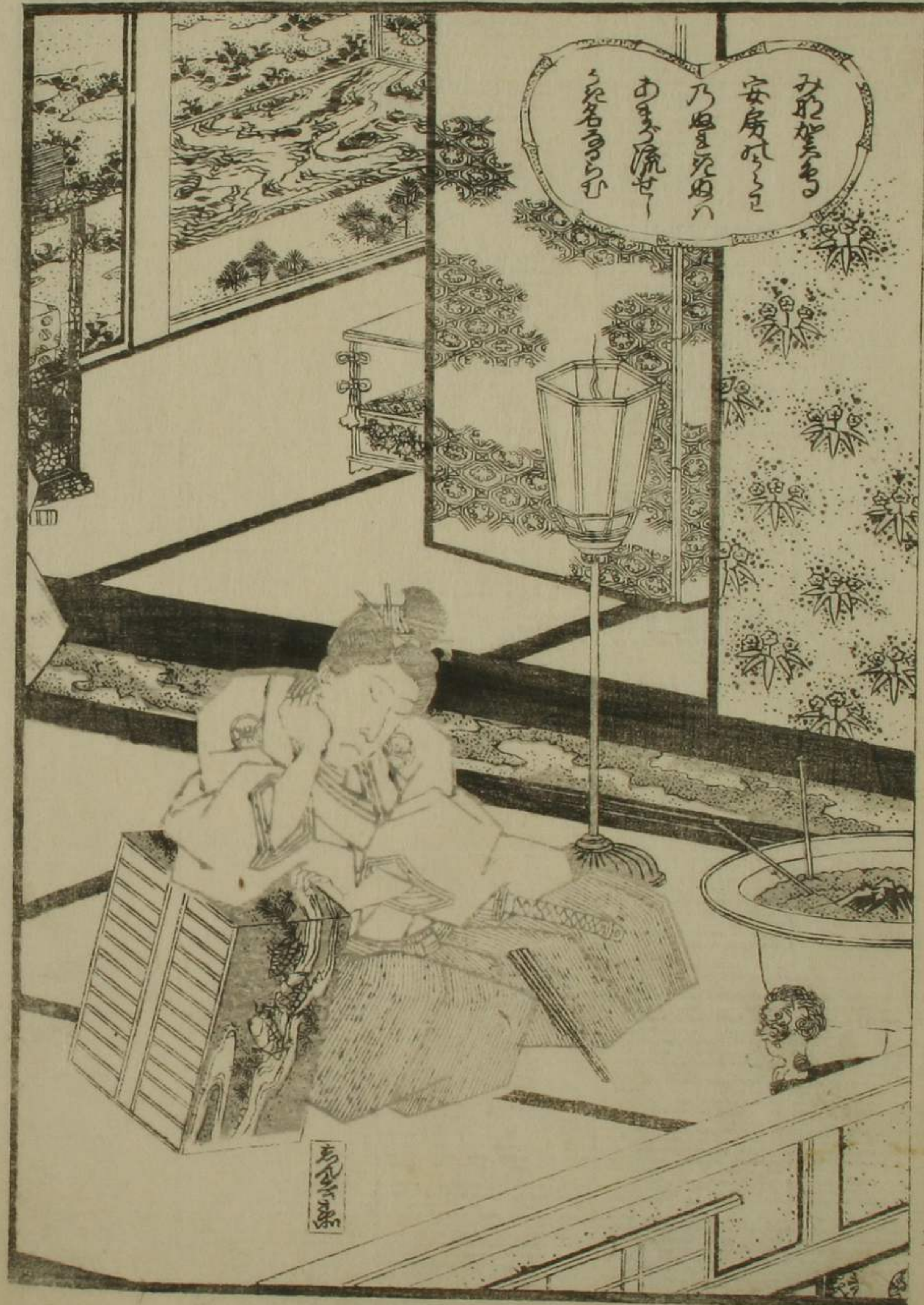
若し遣て後々も障尋あて姫上命連長久をまほ祈らぬ一日より吾孺前も我成  
 主も夜を安く人定より枕を就て睡りぬるをまほり親兵衛が参りより第七日と夜を迫りて  
 何と寝苦しと睡りかた短夜の深も随胸うちさきて平き覚ぬいふお濱路が病着の  
 更も危窮か及び然らざら物怪立頭れて惱み歎け親兵衛のふまはけ近習們を遣りて安  
 不尋問せむと尋思も次の間臥る近習某甲と喚覚えと遠く頭を拍ひぬ否既  
 小夜深で四更の上土の方僅響たか救は他們を遣て問てさるるも徒は這那の人成さへ驚  
 事益々多き女々も疑心より暗鬼とせしめんと笑れも其悔かへし所詮我か  
 白だて那裏安を探り知るおあてあて思ひかへぬ横と撥遣り身を起し枕方を  
 腋挿の刀と帯て次の間言紙の差す推用して并首有ける提燭と兼りて行燈の火と程し開を  
 推して遠く幾間独ち過して奥と表第の間身圍の銷を推し思ふも似用されけり  
 尋し找入りて濱路姫の臥房を次の間来てたあふ燈燭の光幽めて親兵衛の這里に在るを  
 見ゆ

訝しけれと夜二更時立在て悄々地四下とさるる玉の濱路姫の臥房を男女の其く聲を  
 表す今ゆふゆふのあふれ退去んとあふ程不弗憶く東物ありて脚を横と又訝りて悄と合抗て  
 提燭の火光を照してとてあふ是則艶書標識見るとあふ疑ふもあふ濱路姫の  
 迹を親兵衛に贈る義成主勃然と怒地怒り不堪され先那奴們を推並て敷きせんと只  
 管不憚る心もなぐ推鎮めする君子の本性胸の深念を在曉の月をさす這艶間の人あせと  
 懐夾めたるも偷歩ありて臥房かたのひを那裏夜勤の婢妾們も這里不當番の近習們も短夜を  
 とへ貪睡して皆夢かご知まりけり介程義成主の單臥房の入りて坐して身又頭を傾け  
 熟思惟の親兵衛の勝れて身長を十六七の後生像く氣生年九歳の孺子を疑婦女子の  
 中か置くも淫奔がうたあふと思ひて我法慮を形體と俱心さへ名大備て早晩色情の  
 起しけん約莫男若密會の俱死刑の約は法律は明文あり他們情由人知れ許さん欲ら  
 まるも助けぬる罪過多し幸い人あふあふ方僅這艶箇の我も落ち他們が與主





うき



みねまも  
安房のこ  
乃海に死ぬ  
おまう流せ  
さるるらむ

うき

親の恥と捨てて減るに及ぶ。濱路の左も右もあれ親兵衛毎に平々。豪傑の氣質あり。且八士の人  
 中、自餘の大士先へて我に仕て。西に番大功あり。若るの思案の外に俗にも。這情慾の罪。糾  
 可惜大士の痴を附て。後世まで遺恨多し。所詮中と刻意遠離て。他们を感ら。醒折返さず  
 可憐とす。毎も主意決りけれ。枕方を置あむ。提燭をさ。引をせて。件の艶簡と推固の燈燭の  
 上。發と起升。炭と共に提燭をさ。吹滅して。遠く檢遣り。腋神の刀を枕方。刀架ま  
 掛。且七。ゆび枕。成就の寛仁。大慶の賢君子。竟小睡。明る天を。今夕と復寢の床。不眠。生涯  
 了る。けり。悠而。詔日。義成主。親兵衛を。召近着。け。左右。近習。退けて。宣。濱路。病着  
 瘵。て。物怪。亦。退散。せ。い。ま。ま。功。一。七。那。靈。王。の。奇。持。も。あ。ん。濱。路。も。い。ま。ま。浴。湯。せ。ま。病。の  
 床。在。り。とい。へ。も。既。本。復。及。び。か。今日。より。夜。勤。を。免。去。し。就。て。我。思。ふ。し。あ。ら。む。伏。せ。し。時。り。伏  
 姫。の。目。火。の。擁。護。の。あり。て。富。山。の。奥。小。生。育。れ。閑。の。東。西。多。諸。國。の。あ。り。て。這。安。房。上。総。の。地。理。い。ま。も。  
 知。る。所。多。し。ふ。に。且。自。餘。の。大。士。們。年。來。汝。の。所。在。を。索。して。八。人。具。足。せ。ら。ま。ひ。參。り。か。つ。と。錢。回。り。

推辭。あ。ま。の。つ。ま。を。り。あ。る。の。ゆ。え。四。の。大。士。們。去。歲。の。冬。より。武。藏。を。總。北。の。御。士。水。垣。甘。本。甲。と。よ。ん。家。の  
 寓。居。ま。の。餘。那。大。飯。毛。乃。胤。智。乃。往。方。の。い。ま。と。大。川。井。大。甲。小。文。吾。乃。乃。乃。乃。在。當。房  
 乙。甲。斐。の。石。末。の。指。月。院。と。い。ふ。一。穂。北。へ。尚。來。會。せ。ら。ま。し。星。表。小。登。崎。照。文。の。囀。り。と。云  
 知。る。那。信。乃。道。節。現。八。大。角。今。も。多。穂。北。を。御。士。宿。所。の。淹。留。を。あ。ら。む。の。後。に。い。ま。ま。を  
 也。他。們。の。年。來。汝。の。所。在。を。索。難。々。存。ら。ぬ。汝。が。我。に。侍。り。と。告。も。遣。ら。ぬ。不。美。我。か。似。ら。ぬ。我。の  
 春。の。照。文。を。て。件。の。宿。所。遣。て。信。乃。們。四。大。士。の。安。否。を。訪。し。且。毛。乃。們。三。大。士。の。來。會。せ。り。秋。不。會  
 向。せ。ん。と。を。思。ひ。小。義。通。が。身。福。鬼。起。り。素。藤。を。征。伐。の。軍。陣。が。日。を。弥。り。且。濱。路。が。病。着。物  
 怪。の。祟。因。て。三。春。と。空。過。し。信。乃。道。節。們。を。訪。き。暇。あ。ら。む。信。乃。信。乃。乃。信。乃。乃。信。乃。道  
 節。現。八。大。角。今。も。多。穂。北。を。御。士。宿。所。の。淹。留。を。あ。ら。む。の。後。に。い。ま。ま。を。星。表。小。登。崎。照。文。の。囀。り。と。云  
 往。方。と。云。ふ。大。士。八。名。具。足。の。日。所。斯。伴。は。か。り。奉。ら。單。館。山。の。城。主。と。い。ふ。上。總。の。在。る。小。勝。之。若  
 因。て。汝。不。遊。歷。の。暇。と。只。今。取。ら。ま。り。一。栗。岡。の。八。人。を。送。り。登。覽。せ。ら。ま。し。一。栗。七。大。士。と。索。て。俱。還。り。

か 任れ奉る去て寛く還る妙とぞ下然ハ汝が秘藏の玉と今返を免該我もいふを濱  
路ハ軍に徹林せ且汝が這里在る多て復物怪の障りあり何ぞも不讓んや縦汝在  
ぎも王に那伴埋措六然障身多るべや尤無心の至りるれも汝がかりるるも那靈玉を我  
預け知らるる二重瓶不藏め土中瘞れ火災盜賊の患い有候是ハ納戸財を盤  
纏の與取とるもこの意とよと丁寧子情語示して黄金百兩紙小包を折敷載せしめて  
合せ與へ親兵衛の邊へ膝とれめ受載て身を退りて直に御説の趣辱都て  
美り小治微臣二人七士先もて候まそ御恩を宣示する実不本意不ひりとも御老侯の  
御危難を富山極むりより素藤對治の事より憶を統袴不敷され心苦くひり不  
今遊寐苦與ふ身の暇も賜て自餘の士士們を俱して歸參れとの教命の宣示臣も幸ひる況路  
費の金と御も親賜の罷恩親舊身もまもて誓取不物も感涙の外ハ又靈玉の  
のりも既不知せぬと年来奇特なれぬの身の護ふとも君の與一命を獻るとも辭

夫々然と知那玉と御用不達は是亦幸以微臣から参るも埋措せりか。夫々今日啓妙と作  
ん勿論なれも大母が月來候とびんとあつどのの別れ後の歎も不便一雨時溜田  
立寄て祖母妙真對面して徑路足仕んる美と許させらんを宣示義成王叱吟と開  
亦餘誤るるも灌漑逗留とて妙真對面せり退ると佳とせん老侯も別入をりて  
是等ののうとせあけて人意不汝が遊歴伴當の言はり反て路次の煩人多ん親兵を擇て二名  
俱とくも便宜不儘せし快退出せし身の暇も賜て親兵衛の額徳で送るも御恩命  
肝胆銘と上をぐん願ひ貴體善く猶良善の政事をおまほり候れと公の義成親頭  
のひてあるる言と快退りぬと仰親兵衛向て受賜の金懐依を賜て立身跡を濁さぬ  
春の池庭の嬪垂木の樹下陰暗くぬ身不疑の兩帷を松の蔭に推し廊下よ  
て退ぬる介程親兵衛の既思ふよりあれが朝本番を甲ひも別を告げを猛可仰を直した  
と瀧田へ赴くとのぞ知して伴當們を口下せり青海波の馬を牽して二の城門を歩程不肚裏思

今日君侯の仰を左も右もあつたね那物怪の退散して濱路姫の病着の精瘥るひが宿  
 真役を免されぬ夫も命多う入館山返され刺猛可遊歴きよ身暇賜之瀧田大母の  
 宿所も一日も逗留まがむと候をぬかぬ故もぬかぬ言出ぬとて我を疑ふ道  
 放ちぬあらん然れども身取て毫も死疑ひも覚るる。餘の大士先之と大功ありの  
 る。更ふ館門の立入て婢妾們二列夜勤を仰付れ。媚へ息使入公。詭言まらば君侯業  
 より賢明も便便利只小人と信容れぬぐぬ。衆口の金と鏢。市小五虎と殺まらば古人の常  
 吉以る功成り名遂て身退くは是達人用心宅生涯無異の捷徑を誰も知りたるを奉  
 禄富貴を命負りて退くこと忘るるは瀧田書で校免きやれ平家亡びて義経死を栄枯得  
 失今昔一致を教馬ふ足らぬ。我里見家仕せよ。三三餘日過せ多く上總の館山を  
 城と預けられし尚一撮去米色もは坐席格式一とて定めれる多る。那折らる兵權一時の  
 夢の如く見ゆるありませ。今もの後装程を我義兄弟多士門の球會ふ日のありとて。這身か

受る濡衣を脱ぎて這地を住も仕の途不入とて情々地胸を決め。第二の城門を中外伴當門を  
 入りて我火急の所要あり。瀧田城内に召置る。大母許赴き若曹に我馬を後下を走せよ。十  
 人の内中七人の館山の城からあはれ伴若黨一名馬の鑣隸鞋ぬ。徐に續いて瀧田東よその馬寄せよと  
 幸向をせぬりと無りて葛蔓地に瀧田と投て走らる。素より駿足多とて我里の路の程と思ひの隨ふ  
 乗着て多瀧田の城東あはれ馳て馬より下立て番卒們を喚ぶ。我大江親兵衛大母妙真  
 許赴く伴當の後れられ一兩番時這馬を駕しゆる妙真の宿所へ。舟程を疾那里を。同の番卒  
 ちと疑議を。豫知する武功の大士親兵衛を。二兩名遠く立出て仰あるゆひ妙真尼姑の宿所  
 へ我我案内と仕ん卒のいと女房。一卒の馬と牽入れて塙城内に駁糸留。一卒の親兵衛の先を立。御  
 道守と考へ。一尋ねも。二の城門をうち過て又一町。柳巷路と喚做き邊邊諸士の耳房。ヨとあり  
 開く舎尻の空地の空地の北の茅草。一庵小舎ありて竹筥と折鏡。二の両折戸の頭を番卒急  
 歩と住ぬ。親兵衛をえらる。尋ねぬ妙真尼姑。即這里でいと誨て馳て辭別れて走りて正門へ還り

親兵衛の勞ひて結ぶる野袴を引伸々両折戸を敲りて連りぬ喉門程の妙真奥より立ち出で  
 此戸を閉せ親兵衛を尋ね討つは那重も尋ね親兵衛も左に見て其身は大母様か其の  
 大八大江親兵衛のそと名告ふ妙真胆を凌いで相と約莫半時許忽地合泪で原來和殿の親兵  
 衛より一歩六松富山在り一程最も大なる事あり人の噂も聞かぬ然るも大人備へんかと思ひけ  
 るに御前様雲雀の消息を寄られ相見ると慰め給ひ先這方と愛も多し軀て坐席請登され  
 親兵衛の刀を解て後方お聞かせし妙真も對して我人の身比より倍も倍せぬは晨夜時の不祥を  
 憶ひ別れしつゝと夢をも思ふ六松富山に海軍中の神女を擁護快見参入しと思ふる日の死  
 りの仕の途ありし我私を願る暇も昨日まで未過せ胸苦しく一日も秋の異なる所あり  
 今時至りて恙も在り拜顔の秋は何事かこれ優美に宜しき辱に再會しそめとの妙真  
 點頭の涙ふも難顔と背けて両袖を絞るもの行流きてと相見舞ひは小袖と又深に  
 歎息社も今願事遂に對面泣下と辱目と拭いて喃親兵衛你の度の大功の蟄蟻主も與四郎翁

告知のいふ咱侘々年来三柱の宛館不受なり御恩と聊返し思ふ然しも身の幅の廣は世  
 界の二人とゆるる孫と思ひ又その親のま胸の浮れは泣き流すも涙は老女の愚痴をん你的  
 與外大父様賞てま行徳也故の古那屋の文五兵衛翁今まで存命ぬは愛も多し然れ  
 ん小苦海愛河の世定めき弘法言の船出遠ければ別れも住りも假の宿り知り返りぬ人の  
 かなう死の傍る像身のおれは喃親兵衛の益多き多し見れ思ひ你的面影切禪貌の程など  
 鼻梁のとと融りて特お眼睛の清きもの房小肖りけり又のふて笑折小片厭見つゝ阿  
 沼苗小肖り四個の親身父と母と外戚の祖父と黄泉の行客と多し五松六松の今日まで残る我  
 這身單小思ひ難う哀歡苦樂遣る瀬も多し恩愛の西鶴小をといひて又潜然と泣流し親兵  
 衛然と慰め給ひて目と數瞬鼻をうかきと大母様小思ひ召ま歎息理ふそめ我身一親を  
 喪ひし僅小四才の比とよ名とぞ知れ面影を照まると水鏡深に懷を汲てそ父とも母とも大父とも  
 見なむの身益多し悲泣心と屈て病を煩ひぬと妙真頭を拾て然也と介さか噫

鈍才と言ふ紛れ。先茶も亦もあつた。那炊妻。那果在。親兵衛阿饅の欲。先無事。お  
 らん。あつた。推林。お。否。閣。あ。何。欲。偶。参。の。八。媛。女。の。譚。て。尉。當。ち。該  
 られ。お。せん。猛。可。不。君。命。奉。り。今。も。他。郷。赴。け。れ。あ。か。り。東。島。日。又。見。参。入。ん。れ。お。不。妙。真  
 呆。親。と。開。亦。本。意。を。了。り。濱。路。姫。上。六。丸。病。着。の。瘥。き。甘。い。飲。他。御。御。用。の。心。磨。き。の。と。同  
 親。兵。衛。然。り。那。物。怪。の。鎮。り。て。姫。上。瘥。り。の。因。て。某。と。同。因。果。の。空。を。小。犬。大。田。主。乃。大。塚。大  
 山。犬。川。大。飼。犬。村。と。俱。六。犬。士。或。武。藏。の。穂。北。在。或。甲。斐。の。石。木。小。町。獨。大。阪。毛。乃。智。智。と。喚。做  
 一。犬。士。の。所。在。知。れ。と。い。ふ。尋。て。送。り。得。て。来。よ。と。仰。付。れ。れ。妙。真。領。て。開。亦。餘。事。を  
 武。藏。の。便。路。を。ん。你。の。舊。里。下。總。多。市。河。立。寄。て。依。介。許。訪。ひ。水。濤。の。咄。の。姪。を。不  
 你。の。與。中。親。族。之。件。の。夫。婦。正。首。折。々。簡。牘。と。安。否。と。問。東。西。を。贈。來。と。終。り。あ。る。為。て。あ。い  
 ね。か。と。お。不。親。兵。衛。異。議。も。き。開。い。あ。る。為。て。伏。姫。上。の。神。靈。の。宣。示。を。あ。り。六。依。介。が。り。も。豫  
 知。の。り。あ。然。と。も。兩。尊。の。甚。奉。と。必。ま。く。思。は。れ。那。里。を。寄。る。勿。論。お。か。枝。花。咲。け。お。

媼。與。四。郎。と。娘。は。孫。連。の。恙。も。あ。り。宿。所。の。辺。に。牧。と。向。の。妙。真。領。て。然。り。那。人。を。置。り。処。の。壁。一  
 隔。隣。を。内。通。路。も。付。り。一。家。見。不。異。な。れ。も。今。日。富。山。伏。姫。上。の。見。参。詣。り。峯。上。觀。音  
 節。の。胞。姉。妹。も。懇。切。に。問。ひ。時。々。交。加。て。六。輪。僧。と。共。侶。富。山。不。曉。一。々。を。説。も。亦。と。慰。め。り  
 且。お。折。の。て。て。一。人。も。宿。所。に。在。り。か。の。事。と。も。听。き。最。酷。と。送。憾。と。思。は。れ。と。お。不。親。兵。衛。眉。を  
 頻。り。開。い。最。殊。勝。の。事。を。那。人。を。還。り。親。兵。衛。の。君。命。を。票。て。他。郷。赴。け。れ。お。不。親。兵。衛。の。心。を  
 と。の。間。の。炊。妻。と。茶。と。沸。り。り。汲。り。て。先。親。兵。衛。小。薦。ゆ。茶。頓。鹹。塩。打。の。豆。衣。の。今。も。世。話。不  
 公。実。房。別。の。後。倒。れ。地。方。が。と。東。西。の。曾。素。不。過。た。方。数。待。の。婦。人。東。道。を。造。作。の。意。の。心。を。り  
 け。ら。姑。且。と。親。兵。衛。の。勤。壯。の。財。囊。より。金。一。裏。合。半。を。を。妙。真。領。て。お。不。親。兵。衛。の。見。参  
 求。め。お。か。と。の。妙。真。領。て。開。亦。亦。要。る。事。か。當。御。館。より。這。年。來。扶持。賜。と。奴。婢。も。亦。謀。置。



あつて自由を成すも平況往日稻村様の這里凱陣され折咄併と近く召され此の武功と譽せ玉  
 いてまゝ白銀巻絹と賜りこれを使ひて今有るが然るを金何れと推辭を親去衛兵薦  
 りて開ハ然るも信らんが盤纏また盗賊の殃危を惹く媒好は姑且預け置らん後め置置らん  
 のふ妙真固辭難て流々金を受令りけり登時親兵衛愈も仰せ日のご永代時候き憶ハ  
 去時を程い見付酷く教後左も右も盡せぬ名残身の暇を賜ふ。ふふ妙真合目し等々  
 親見ても切て一宿留めさせ世の武夫の治習を苦みの仕の途是と思へ又原の船長の母と喚れ  
 んぞ倒不樂一かべれ喃親兵衛今宵出船不乗る必あらん此比が来生まはんと向れて親兵衛阿とるふ  
 答難方身の往方那濡衣と乾せりまの安房の浦邊に立ち寄り寄る白波ありとも我還る日なりの  
 思ふのり然氣見せ沈吟し頭を拾ひて然今より去向を料系武藏と申斐隣國を往還軌  
 くひ元但大阪の在る処速不遅日と過え狭邊速に定められも然も歳月と果るらひの下の寛み等  
 せぬかとのしつ刀と極合まで衝建て身を起其妙真のく人を涙と俱ふためめて端辺に送ら

は。伴當を討れ親兵衛意不えつて不深馬の伴當正門の増城の伴當一置置れは妙真  
 領ていすもあねも。你い萬支心術の神々しく初旅を心り。餘の天士連環會  
 での旦夕の食物足曳の山踰海川の津の小心多と心し屬し親兵衛一談及を諾して升るる  
 みつら愛して恙多かち来る日と復見参入久れども答も隱の果名残血筋の誠親の又親これ  
 又子愛も情も厚氷解て流れて水と人の往方の定めぬ命命迷の瀧を先。夜の鶴も哀  
 第百十一回 妖尼庭の衆兇と聚ふ 素藤夜舊城と襲ふ  
 却説大江親兵衛の祖母妙真別れて城の正門を去る程の路に後れし二個の伴當折  
 這里あて趕着けり是れも親兵衛の正門の守屋立寄て那兩個の番卒不軟を演ぞと預け  
 馬を鑣奴不牽きしり兼のせそ夜浦曲のうそと一町許伴當們を多そ若們の知る  
 我の今朝惜々君命と稟られ軍他郷赴へ任れ去向伴當ありの倒小軍が因て若們三名



稲村の御館まゝに左見門の件を報へ館山還る。却這馬の稲村も既役人へ申し生れ初め預  
 け置ねるもの多し比老侯も拜領の名馬を若し路半日暮るも必歌店成就くも夜は深  
 とも那裏まゝと人伺向の親兵衛の妙具許を立去りてその投方へ罪を有つ依答へと言語を  
 しく吩咐れ大家をさうさうて仰るるに遊莫密事の使とも身單平不便ふも切一人  
 俱へ去る。とを親兵衛の申す井の蓋も口誼へ俱へ誰かも憚りて俱へ去る。快くはとい  
 其大家をさうさう果て立別れ馬を牽り稲村を投て去る。親兵衛一霎時目送り今も心安  
 と思へ便宜の港口も船公の宿所へ赴て今宵下總の市河へ出船あると尋る船公答て出船  
 る。幸ふ追風よれば賃銀多く賜り自今船を出下ると親兵衛再談及ぶ。随銀を  
 取つて件の船に乗るも登時篙工高名飯櫃新飲水の桶をと推して卒を馬頭上へ程親  
 兵衛の舟が後跟て俱へ水際へ赴て他們が船を解ると等々獨鵲立處長より日の沈果々黄  
 昏時侯もさうさうの傍り一程親兵衛の肚裏の思ふ。現人の栄辱得失宛一炊の夢も秋の

天の瞬間の晴曇る猶果敢て抑我身昨日まで。數百の士卒將として館山の城主より今日  
 一僕身に従ひて萬男狐客とさういけり。そを憂る小あねも。那靈玉の我未生より自然と得る寶貝  
 年来這身の護りも主君の興衰のひら。薄情や土中埋れて又そのかゝる我命運も主  
 俱へ長く光を喪ふ祥なけり。歎といへる。心の慨へ遣る方も思ひ折る。忽然と後方上  
 を光明颯と見ゆ。投石の似た物ありん。頂礮と中るとそが。衣領より滾滾と丸の命の  
 邊に住りて親兵衛は嗟と駭て遠く衣の内入れの撥撈る。果くと木栗子の大にさる物  
 只一顆背あり。訝りる。合ふてそれら別物も。御京君侯の貸ま。濱路姫の臥房の  
 下る土中へ深く埋置れ。仁の字の玉をけられ。そを心麻の。小ひびの訝り。又ひびを  
 びてはらんと思ふ。御高我這王と毫も惜む。君侯の所望に従ひ。那裏も留め惜れた  
 了。靈玉我を慕ふ。秋二里の瓶。三尺の土中へ出て路遙。我懐か入る。嗚呼神を秋靈を故姫上  
 病着瘥の。物怪も亦鎮。これ這王那里不要。と伏姫神の神謀。小計り返させぬ。秋

それある取次奇妙なる。その事稲村殿より知し召させし。縦も我王とて。恁の奇特を告せし。まよひの終藏置る。影護の所あり。後より又疑ひ。受むる。然れども今も。又稲村へ歸す。まよひの事。京上人の面伏。左まれば。吉凶禍福。神の隨意儘。まよひとて。尋思。懐かせし。護身書表の。幼解。件の玉。彼も頂。高師。高師。高師。客人。船の救。追風。の。宜。快乗。の。喚聲。浦波。暗む。王。親兵衛。心々。答も。果。歩。早。歩。板。架。渡。の。件。の。船。乗。移。る。その。間。高。工。毎。帆。装。る。歩。架。退。て。曹。大。洋。浮。宿。の。鷗。見。静。る。淺。瀬。上。下。下。つ。總。市。河。を。投。て。走。り。けり。案。下。再。説。の。日。稻。村。の。城。内。の。義。成。の。王。千。慮。を。盡。して。既。大。江。親。兵。衛。を。他。郷。遣。ひ。隨。即。奥。隸。の。老。黨。某。申。と。召。せ。て。濱。路。を。病。着。瘡。を。物。怪。も。亦。鎮。り。され。今日。も。大。江。親。兵。衛。の。夜。勤。の。役。を。免。し。且。恁。々の。所。要。め。れ。又。親。兵。衛。の。吩。咐。て。他。郷。遣。ひ。水。路。の。今。宵。必。須。と。解。く。ん。這。々。四。個。の。家。老。は。有。司。給。事。の。老。女。們。小。傳。へ。て。あ。ら。は。せ。と。仰。渡。さ。せ。ぬ。件。の。老。黨。兼。り。て。退。り。君。命。の。趣。を。送。り。く。御。傳。へ。ら。ば。

堀内貞仍東辰相杉倉荒川四個の老黨有司近習の輩まで事情を知りし。評り思ひ。若七大夫の所在。在。事。て。伴。ひ。來。る。那。太。江。親。兵。衛。大。功。の。賞。と。て。往。日。他。を。館。山。の。城。王。に。さ。せ。り。け。り。若。七。大。夫。の。所。在。在。事。て。伴。ひ。來。た。ん。為。の。始。り。と。件。の。二。美。奉。り。る。十。郎。照。文。を。相。心。り。し。重。用。に。親。兵。衛。を。輕。輕。く。然。る。兒。使。を。仰。付。せ。ぬ。抑。是。甚。麼。の。故。を。吐。く。の。も。ま。り。け。り。然。而。あ。の。日。の。濱。路。の。徹。床。の。壽。祿。あり。是。より。上。総。の。殿。臺。を。兩。八。幡。諏。訪。之。社。の。神。王。に。忠。告。紛。れ。な。れ。と。上。総。還。る。を。許。され。又。比。漕。田。の。賊。より。牽。渡。さ。れ。る。五。個。の。罪。人。安。西。出。來。入。滿。呂。復。五。郎。天。津。九。西。郎。荒。磯。南。弥。六。椿。村。隆。八。們。亦。復。獄。舎。に。罷。置。て。虛。實。を。辨。別。し。都。て。他。們。を。陳。考。趣。始。終。毫。も。違。は。さ。ず。且。昔。善。蘇。々。利。の。村。人。們。の。稟。せ。し。義。と。咄。合。し。歸。降。の。情。願。実。事。を。し。り。亦。傳。愛。た。折。る。ま。の。義。成。主。有。司。下。知。り。件。の。罪。人。們。を。赦。免。せ。り。ま。の。龍。田。の。老。侯。の。仁。慈。を。し。り。渡。さ。る。又。上。甘。理。墨。之。介。天。津。九。西。郎。が。故。主。と。い。ふ。も。素。より。是。廢。人。也。是。義。表。素。藤。小。吟。吟。の。密。受。の。干。し。を。且。他。神。餘。光。弘。の。後。浪。の。も。亦。普。善。村。の。良。民。の。口。碑。不。紛。れ。當。郡。舊。家。の。後。裔。な。れ。

義成特小憐... 長狹郡神餘村... 九三四郎後見... 欽地小喜... 造の奴婢... 九三四郎... 乃の墨... 免の安... 守の直... 月俸... 御て御... 又賜... 願... 大馬... 再生... 洪恩... 報... 稟... 中... 上

總... 椿村... 親... 慰... 身... 暇... 有... 司... 佐... 々... 成... 主... 憐... 愍... の... 以... て... 隊... 六... が... 情... 願... 九... 三... 四... 郎... 小... 五... を... 及... び... さ... ら... 是... 亦... 孝... 子... の... 心... 宜... しく... 路... 費... を... 取... せ... よ... と... 仰... 示... さ... れ... ば... 又... 這... 仁... 政... を... 終... ひ... 兼... て... 退... 去... ら... ば... 儀... の... 上... へ... 出... 來... 介... 復... 五... 郎... 南... 弥... 六... を... 當... 城... 小... 任... る... と... 許... され... ば... 八... の... 路... 費... を... 賜... せ... 給... へ... と... 椿... 村... へ... 返... 上... へ... ぬ... 然... ら... ば... 仍... ち... 住... る... 者... も... 輒... の... 魚... の... 江... 小... 邊... 迄... 枯... る... 事... あり... ぬ... 故... 程... 八... の... 南... 弥... 六... 出... 來... 介... 復... 五... 郎... 小... 別... れ... ば... 家... 路... 小... 赴... 死... が... 罪... 障... 眼... 前... の... 活... 地... 獄... 懲... と... 使... 客... の... 交... を... 要... せ... ば... 上... 總... の... 宿... 所... へ... 還... り... て... 六... 畹... 作... の... 暇... を... 毎... 日... 小... づ... の... 母... 不... 仕... の... 後... 々... 山... 至... の... 所... へ... 嚙... せ... ば... 命... を... 取... り... と... せ... ば... 又... 義... 成... 王... 件... の... 五... 人... を... 赦... 免... の... 朝... 罷... 田... 候... 者... 遣... 上... へ... 九... 三... 四... 郎... 五... 個... の... 罪... 人... を... 赦... 免... せ... 給... へ... 事... の... 趣... 并... 介... 復... 五... 郎... 親... 兵... 衛... の... 夜... 勤... を... 免... せ... 給... へ... 七... 大... 士... 招... け... 奉... 上... へ... 與... 小... 昨... 日... 他... の... 遊... 歴... の... 暇... を... 取... り... 上... へ... 廣... 路... 姫... 徹... 將... の... 執... 事... へ... 任... せ... 給... へ... 且... 先... 候... の... 報... の... 上... へ... 義... 實... 王... 所... の... 以... て... 或... 然... ち... 或... 評... り... 什... 麼... 大... 江... 親... 兵... 衛... を... 獨... 然... ち... 使... 出... 介... 復... 五... 郎... 小... 遣... 上... へ... 先... 照... 文... 書... 上... へ... 示... 上... へ... 且... 向... 介... 復... 五... 郎... 小... 亦... 敬... 慕... の... 書... 上... へ... 示... 上... へ...

その意はさういふ他は稲村遣して義成主事事情を尋ねさせんはまゝの事とて伏黙止むは話  
 分頭余程小暮田素藤。單人不入の庵と守と妙椿の還ると等し小件の女僧が去る白  
 老より約莫十有三四日を歴て二月も既小暮時侯を朝妙椿の忽然とかりて獨縁頼在り  
 妙素藤驚き且欬ひて迎入れ計り事の成就ある歎否と問へ妙椿含笑て憐りある問ればも  
 詳言告然せんと思てかゝ素藤も亦うち笑てその憑あるんか。鳥の聲水の音耳に  
 聴くも友もなき這人不入の山守の御り等と甲斐のけりよといひ妙椿領て然りとよはる疎身  
 示せしと。咱侘稻村赴て法術をて城内の妖術をてりて。竟か大江親兵衛を遠く他郷へ還遣  
 らし。その段は箇様々々と那假名鬼の冤鬼小濱路姫の厭鬼れて遂に柄着する。又役行者  
 とて守る假異人の示現の事は亦も館中の大江親兵衛と召来とて濱路姫の宿直として七日夜勤と  
 させし。その折那靈玉と病の牀の管の下の下る土中へ埋めさせし。説示して又女中。姫の病着差  
 下り時侯一々義成の疑心と起して更闌て那身一個濱路姫の臥房に於て折次の間小濱直と志

たる親兵衛と咱侘をてその夜早より打恥りて義成其他をを存は是も所は那靈玉他が懐か  
 むまごして土中へ埋めさせし故思ひの随ふ初め。尚玉と初め。親兵衛が身附てあはれ  
 までとせんや。段の妙も思ひ然而義成火姫の臥房を。男女の情語を。且濱路  
 姫が親兵衛を贈り假遣艶筒と拾ひて。義成怒り堪ぞと件の男女を推並て。敷かせ  
 んと性起りたる折を。親兵衛を結果に愉快に濱路姫を殺して。死身の與妙ありと  
 と思ふのり。林下難。小義成の性として短慮の猛將とされ。立地思ひ復て敢る氣を頭を拾  
 ひ艶筒と懐小夾めて臥房を迷りて。件の男女の中を列衣して。人知れずと艶筒を讀み  
 燔棄する。その艶筒の比堀内藏人貞の杉倉武者助と欺て大樟村より稻村へ音も還  
 る遣し。御教書と同し。段で次の日再圍まれ。素紙のるのふ。あや燔棄され。あも亦妙  
 又那回義成が夜深に單濱路姫の病状赴折表第と奥の関の戸の鎖の必固く。頼も頼を  
 去の咱法徳ではれも。義成の訝り。後ふ。外。是も亦親兵衛が所為とす。

思ひまゝに。這一條の遠くぬ大隔。昨夜はなぞか。その詰朝義成の親兵衛を召近着て。招  
 けし。七武士の所在を宗まで。俱くとあよと。遊歴の暇を合をせし。龍田の祖母の宿野  
 だも逗留を免され。急ぎて逐立られ。親兵衛水路より。其宵他御(赴)に。那奴が存を。そ  
 館山城を。累ん。今宵一夜を過失。非除又年。歴て親兵衛が。あつとも。那玉を  
 還され。水母の小鯨。離れ似。要る人。高妙。鼻轟。説誇。素  
 素藤。怡悦。勝む。耳を。散け。藤を。找。所惚。半。暇。許。憶。止。息。を。吻。通。愛。死。尼。姑  
 神樹。柳。館。山。の。城。魚。復。去。又。是。其。麻。多。妙。計。あ。る。と。向。を。妙。椿。心。更。お。開。中。亦。段。々。と。わ  
 御。寄。隊。の。陣。牽。れ。追。放。せ。れ。躬。方。の。主。卒。願。八。盆。作。本。膳。碗。九。及。雜。兵。們。の。當。日。副  
 門。の。落。口。主。卒。中。都。て。法。術。を。の。て。目。より。這。四。下。る。太。山。小。潛。置。置。れ。期。の。位。て。あ。の。処。喚。聚  
 合。ん。と。易。かり。且。前。祝。酒。を。喫。て。姑。且。俱。小。樂。兵。酒。菜。の。咄。体。が。准。備。七。五。六。種。向。溜。溜。快  
 合。ん。と。あ。ひ。ひ。の。素。藤。計。り。る。邊。く。身。を。起。て。庖。厨。の。板。厨。を。用。ら。れ。果。と。鯛。の。平

魚。の。或。は。前。落。鷄。卵。手。を。皆。悉。調。理。ま。て。五。六。箇。の。青。磁。の。碟。子。小。装。做。と。あ。り。け。れ。果。る。と。小  
 然。感。と。ま。と。酒。を。盪。め。坐。席。へ。饋。せ。り。又。妙。椿。小。館。山。の。城。と。り。復。志。補。策。の。向。の。權。促。と  
 程。不。又。稻。村。と。あ。り。し。も。所。あ。る。向。れ。を。酔。て。俱。寐。の。假。枕。結。ぶ。夢。の。熟。語。樂。を。涯。る。は。り  
 左。右。各。程。小。日。斜。下。下。晡。ま。り。好。素。藤。の。又。妙。椿。小。館。山。の。城。と。り。復。志。補。策。の。向。の。權。促。と  
 登。時。妙。椿。の。枕。撥。遣。の。身。を。起。一。霎。時。外。面。を。瞻。仰。て。現。今。の。好。時。候。あ。ん。隊。那。遠。景。置。置。れ。し  
 休。躬。方。の。主。卒。と。喚。集。ん。の。と。の。ひ。も。縁。頼。小。立。て。首。の。水。の。と。多。淨。口。と。漱。せ。て。外。面。小。立。向。ひ  
 眼。を。閉。て。口。の。呪。文。を。唱。果。て。鮎。て。坐。席。へ。入。り。好。素。藤。の。の。あ。る。と。流。水。と。せ。同。ん。さ。ま。あ。い。く。と  
 思。ふ。俱。小。外。面。を。長。視。と。り。姑。且。と。道。前。向。る。樹。の。間。嵐。の。其。陰。より。ま。近。つ。近。來。ぬ。居。る。人。向  
 是。然。と。し。と。ゆ。え。し。き。れ。素。藤。の。故。隊。兵。礪。時。願。八。平。田。張。盆。作。奧。利。本。膳。淺。木。碗。九。郎。門。成  
 先。小。卒。一。隊。約。莫。二。四。百。名。其。の。庭。小。取。合。方。身。皮。都。て。寔。果。て。二。刀。も。帶。さ。り。け。素。藤。の  
 這。面。必。人。を。う。ち。見。て。鮎。て。縁。頼。小。走。り。出。聲。と。擧。て。先。願。八。們。小。對。面。と。別。後。の。甚。平。言。寄。る。願。八

金作本膳碗九甲乙四個の先兎の言語齊一告る。性目我々の分を無せしめて武藏の相  
模の浦に追放されし折八百尼公法術更難兵奴隷に至るまで。這頭近き奥山皆悉く返  
されし事。幻也水路を渡り來りて終て雲を無せしめて。飛石を來りて飲我上る。昔の如  
くて楚の管見の然る事。料りも。食這四下返されし。大山を食物より。前徑と行客の  
盤纏。更々欲する身寸鐵を帶されし。思ふ。之せん方。只草深に地方。山崎の尋ね  
日毎各捉咬ひて。才小鐵を凌ぎて在る。公程相余亦八百尼公法術にて。之を這頭へ返れ  
このさう。あん。と。厄公示教。よと。妙知る。の。對面許され。近山在る。二  
這草庵小御座。より。厄公示教。よと。妙知る。の。對面許され。近山在る。二  
たの訪。より。各俱小艱苦。忍びて。厄公の補助。より。今朝も。尼公の稻村の城より。出た  
さ。と。在下門。が。躰在る。山陰。不立。奇り。あり。て。妙術。より。大江親兵衛。を。逐遣。する。事。の  
顛末。を。解。示。され。信。れ。今。宵。館。出。城。より。復。さん。と。思。ふ。下。哺。する。時。候。汝。遠。く。成。相。俱。小。咱  
蒼の庭。東。よ。か。し。其。期。を。知。る。や。今。宵。在。下。門。天。の。秋。地。を。喜。び。時。を。復。さん。這。頭。那。里。に。居。る

夥家兵毎小御座。目。の。金。の。事。も。只。今。宵。厄公の喚。せ。る。と。思。ひ。隨。ふ。忽。然。と。都。て。這。山。來。ふ  
けれ。尋。も。惱。見。入。り。入。り。二期の幸。ひ。何。る。是。不。優。美。也。や。と。甲。唱。れ。し。續。て。心。も。似。し。四  
個の兎黨。更。り。聯。辯。の。拍。子。よ。一。五。十。の。話。説。と。素。藤。听。け。飲。感。と。今。宵。思。ひ。し。甲。も。始。よ  
と。あ。て。厄。公。の。補助。を。漏。ら。す。は。あ。ら。ぬ。信。れ。今。宵。會。秘。夏。の。羞。と。雪。ん。と。欲。する。我。出。る。兵。毎。大。刀。も  
を。鎧。も。中。に。心。懸。何。ぞ。と。一。城。の。大。敵。を。伐。死。や。と。の。回。妙。術。の。奧。より。徐。小。出。て。素。藤。は。う。ち  
對。して。その。武。具。も。咱。術。も。曩。小。館。山。の。城。内。で。大江親兵衛。を。利。捕。れる。躬。方。の。鍊。鎧。刀。鎗。今  
も。是。那。城。の。兵。庫。を。藏。め。る。今。宵。先。法。術。より。開。成。を。復。し。て。隨。即。夜。敷。を。用。ふ。然。り。咱  
併。が。の。羊。采。特。小。秘。藏。の。宝。貝。あり。魔。龍。の。玉。と。名。け。る。這。玉。と。風。と。祈。け。猛。風。俄。頃。吹。暴。れ。て  
屋。瓦。復。し。樹。も。倒。れ。效。驗。一。か。も。差。か。と。る。因。て。其。の。宝。貝。も。て。風。を。起。し。て。館。山。の。兵。庫。を。吹。壊。し。て  
那。武。具。を。も。復。さん。と。名。黃。昏。を。り。る。小。先。や。效。驗。と。説。示。し。懷。より。錦。の。囊。を。依。り。て。擁。用  
襲。の。玉。を。令。り。出。て。を。終。其。方。より。朝。額。を。推。當。り。念。と。一。霎。時。咒。文。を。唱。れ。疾。風。颯。と。吹。起

石砂と飛一樹を鳴る。奇特不駭。賊兵們的吹倒され。品稜各携り。俯累りて。頭を拾ひ。拾り  
 けり。倦り一程。日暮。這夜交中の左側。怪む。風。其の聲。刺々。音。と。天より。隊  
 東西あり。その數。幾。百。多。を。知。る。大家。さて。い。と。意。中。小。曉。得。と。避。て。撲。る。者。も。多。く。隊。東。折。れ。る。ふ  
 曩。小。親。兵。衛。小。利。れ。る。躬。方。の。武。具。さ。り。は。れ。衆。兇。都。て。妙。椿。の。奇。術。と。感。服。者。も。多。く。先。素。藤。の  
 武。具。を。尋。令。令。て。縁。頼。不。登。一。置。置。後。各。認。得。あ。る。ふ。い。と。一。揮。令。令。て。鎧。と。探。り。大。刀。を。佩。り。鐘  
 眉。尖。刀。と。揮。て。適。愛。を。武。者。態。や。と。齊。一。笑。局。ふ。入。り。け。り。然。が。當。晚。の。戰。飯。各。豫。山。蛤。を。言。く  
 と。捉。り。交。り。と。て。腰。あ。る。と。合。せ。り。或。は。樹。の。根。尻。と。搦。け。或。は。草。と。折。布。に。坐。り。飽。む。と。う。ち。啖  
 ひ。け。り。他。們。の。墓。田。の。隊。兵。多。ふ。主。家。彌。小。相。似。る。蛙。と。食。と。考。へ。る。の。實。は。是。獅子。身。中。の。虫。の。身。に。似。る。者  
 と。い。ふ。名。詮。自。性。思。ふ。へ。一。回。話。休。題。介。程。小。素。藤。の。黒。草。段。の。甲。一。編。り。て。臂。縛。躰。繳。不。身。放  
 固。め。黃。金。壯。衣。の。天。刀。の。二。尺。八。寸。多。く。鷗。尻。小。佩。做。て。刻。室。を。し。首。と。挿。添。え。右。と。左。戰。磨。と。推。り。く  
 奥。より。徐。々。と。出。て。來。る。縁。頼。不。建。を。見。る。見。見。尻。も。り。搦。て。先。着。到。を。回。る。を。登。時。妙。椿。の。素。出。死

衣。小。袖。の。尚。巳。の。時。許。多。小。黒。天。裁。鳥。絨。の。帶。と。前。老。結。び。黒。純。子。の。袷。沙。表。と。搦。て。故。意。法。衣。と。着。け  
 ぶ。本。自。致。妙。の。阿。高。祖。頭。巾。と。最。も。目。深。う。ち。被。り。も。一。口。の。戒。刀。と。引。提。げ。縁。頼。不。立。坐。て。願。八。盆。作  
 り。對。ひ。の。事。咱。俯。這。實。の。水。今。朝。も。屢。加。持。を。我。兵。毎。快。ひ。修。て。人。別。小。這。水。も。て。兩。眼。を  
 洗。せ。る。徳。野。子。主。の。身。夜。と。物。と。見。ると。明。亮。を。ん。今。日。の。四。月。朝。を。浴。り。て。不。便。を。感。ず。を  
 躬。方。の。士。卒。們。の。鳥。夜。中。も。眼。明。多。く。猫。兒。の。鼠。と。捕。る。も。勝。り。て。敵。と。敵。多。ふ。不。由。多。く。咱。俯。も。墓  
 田。大。人。と。俱。小。館。山。赴。て。悄。々。地。小。粥。と。行。い。ん。既。小。の。准。備。と。轎。子。の。背。門。小。在。り。雜。兵。們。の。喧。嘩  
 咱。俯。と。乘。せ。て。出。で。か。と。願。八。盆。作。一。談。及。び。果。て。時。を。移。さ。し。隊。の。兵。母。小。件。の。事。を。傳  
 へ。る。皆。歎。び。て。先。を。争。ひ。多。く。曾。の。水。も。て。各。眼。と。洗。ひ。け。り。折。風。の。既。小。止。て。夜。子。二。刻。の。時。候。小。云  
 下。素。藤。星。と。瞻。仰。て。時。分。今。七。兵。每。立。ね。快。々。杖。め。と。下。知。り。登。見。を。放。ち。下。立。さ。る。間。小  
 雜。兵。們。の。背。門。小。轎。子。と。吊。り。て。來。り。卒。と。縁。頼。不。昇。寄。ま。れ。妙。椿。就。ち。乗。り。と。拾。起。し。つ  
 素。藤。の。後。跟。て。も。俱。一。さ。り。倦。而。墓。田。素。藤。の。隊。の。賊。兵。二。百。名。先。鋒。後。隊。と。隊。伍。を

整願八盆作本膳碗九并本膳が獨子と、真利根之介出高と喚做る。今茲十八の夜生們を  
 前後左右に従へて山路を連り、不意港をふくと聞ければ、那水も眼を洗ふる效驗あり、衆兵一個  
 も後ろのる。思ひよものち来て、館山の城の後に、不推寄る折鼓々々と譙樓の太鼓の音響をて  
 丑の初刻まりよけり。詔表館山の城内より、日稻村殿の御教書到来とて、大江親兵衛仁也を  
 夜勤の役を免、あて七武士と迎の與隔昨猛可起行とて、その投方遣されり。是れ、速時良  
 干景能們俱不館山勤番とて、弥滋由断々、よその城と守るべしと仰渡されり。件の三士を  
 評りまがら、親兵衛が這里在るを、守るふかたは、なほ、俱不思へ懸念を、臆て、兼書とまをせ  
 下知と士卒の傳る。その急を、警めけり。傳り程、おのの暴風吹起りて、或、城下の廬舎を倒、或、  
 城内の樹木を覆も、風の勢い凄く、て現平を、夜宵せけれ、城下並、不普善、其難を、利村人の各戸を  
 閉風を、言怕れて、外出するものも、なかり、況、館山の城内、田税、連時、登相、良干、若屋、景能們、の士卒を  
 敬言めて、毫も睡る、所、の、風、を、ま、く、烈、く、て、這、夜、東、の、郭、を、兵、庫、兩、座、許、壞、れ、る、や、え、か、も

黒白も、あ、ぬ、夜、を、れ、今、何、と、を、天、の、明、を、等、と、と、敢、敬、馬、に、謀、る、者、あ、る、要、る、武、具、を、  
 れ、ん、徳、而、子、時、過、る、時、候、猛、風、を、登、り、止、ま、れ、れ、士、卒、們、俱、不、心、あ、わ、り、各、睡、り、小、就、け、り、介、程、を、登、田  
 素、藤、の、二、四、百、の、賊、徒、を、領、て、既、小、城、の、後、門、に、寄、せ、ま、け、れ、妙、椿、の、轎、子、を、登、り、出、て、素、藤、其、  
 く、や、う、這、城、内、を、昔、より、一、箇、の、脱、路、を、い、ふ、も、今、入、れ、を、知、り、其、里、を、入、り、便、宜、を、と、も、年、來、千  
 曳、の、石、を、り、り、出、口、入、口、を、塞、ぎ、た、れ、目、今、い、ん、ま、あ、ら、信、れ、の、斬、架、梁、を、渡、り、て、入、り、い、の、で、い、  
 け、も、懐、より、一、條、の、麻、索、を、合、出、し、て、城、向、ひ、て、擲、り、け、れ、その、索、長、く、凶、刃、具、で、八、九、丈、前、面、を、  
 上、お、横、と、そ、が、依、忽、然、と、巧、成、を、雲、の、梯、を、ま、り、け、り、二、妙、魚、骨、般、も、及、ぶ、る、段、不、駭、さ、る、ゆ、を、一、重、苦、時  
 長、視、て、左、右、を、渡、る、者、な、り、と、素、藤、頻、に、焦、燥、て、既、不、渡、の、就、る、快、々、找、め、と、下、知、ま、れ、性、急、雄、の  
 賊、徒、五、七、名、各、鎗、を、挾、み、て、這、架、梁、を、渡、り、危、氣、を、く、見、え、か、が、大、家、俱、あ、ら、も、續、て、輒、渡、の、果  
 る、程、の、妙、椿、の、素、藤、と、先、の、立、ち、共、侶、不、渡、り、て、城、を、入、り、け、れ、然、ら、賊、徒、の、豫、も、案、内、知、ら、る、を、  
 第二、郭、を、潜、び、入、り、常、夜、燈、を、打、滅、々、々、闇、を、吐、と、發、り、諸、役、所、不、殺、入、て、短、兵、急、攻、め、られ、睡、端



あつて、城の士卒は、俱に駭に起り、鎧探る間、あつた、各素肌、短鎗、引提、或は、箭を、推して、細入、  
敵、立、逆、ひ、齊、一、防、戦、ふ、め、如、法、闇、夜、の、進、退、便、く、敵、の、少、量、軍、難、賊、徒、目、目、明、  
亮、も、鳥、夜、も、迷、着、る、者、又、妙、椿、幻、術、也、其、勢、數、千、を、え、り、敵、城、内、を、充、滿、て、鎗、を、立、た、  
地、の、あ、ね、ね、城、の、士、卒、の、防、御、不、由、く、驚、に、慌、度、を、喪、ひ、て、敵、を、ま、り、け、る、當、下、願、八、盆、作、ら、  
真、先、の、抜、む、聲、高、く、當、城、の、奴、們、を、知、る、我、王、甘、田、頭、の、相、公、曾、松、吉、の、恥、を、雪、ん、と、當、晚、數、  
千、の、選、兵、を、領、て、當、城、を、合、復、し、ぬ、番、士、の、頭、人、田、稅、逸、時、登、桐、良、千、們、那、里、在、命、惜、く、百、縛、  
を、降、参、せ、よ、と、喚、り、る、勢、の、潮、の、沸、く、似、く、古、昔、の、義、秀、親、衛、も、敵、を、う、め、り、の、倍、り、程、城、の、  
頭、人、田、稅、戶、加、貝、九、郎、逸、時、登、桐、山、八、郎、良、千、甘、屋、屋、郎、景、能、の、夜、敷、入、の、由、を、う、め、り、を、其、身、を、固、  
め、刀、鎗、引、提、走、出、烈、く、士、卒、を、罵、勵、ま、る、主、齊、一、敵、を、在、て、瞬、息、間、に、幾、人、快、早、鎗、下、刺、伏、され、  
敵、の、視、の、餘、る、大、勢、を、素、藤、と、擇、敵、を、せ、ま、思、ひ、甲、斐、も、中、で、各、法、疾、と、肩、を、こ、這、里、と、先、途、戦、  
ふ、程、に、登、桐、山、八、郎、良、千、の、本、膳、碗、九、郎、と、左、右、不、受、て、連、れ、戦、ふ、大、刀、風、當、る、も、あ、ま、り、け、件、の、二、賊、と、

後より、抜む、躬方、不、讓、り、て、引、退、く、良、千、の、為、脱、下、を、焦、燥、の、隨、脚、下、を、屍、骸、の、撲、地、と、跌、り、  
忽、地、撞、と、輾、び、ぬ、賊、徒、は、ゆ、り、と、幾、人、推、累、り、生、拘、り、け、る、折、逸、時、景、能、の、一、所、不、敵、を、柱、を、高、  
一、歩、も、退、ま、ら、ず、主、卒、の、過、半、數、を、捕、り、て、良、千、虜、も、り、一、々、怯、れ、る、あ、れ、も、逸、時、佐、と、尋、思、ま、る、  
抜、む、景、能、を、推、禁、め、俱、に、退、り、て、談、ま、る、を、ぞ、れ、八、郎、甘、屋、屋、生、自、今、戰、敗、ま、る、も、落、城、の、不、覚、の、償、ひ、  
か、ら、所、詮、命、を、免、れ、て、異、日、賊、將、素、藤、を、狙、撃、す、倒、れ、忠、臣、勇、者、名、を、揚、げ、見、和、殿、の、意、見、甚、  
不、麻、毛、と、公、景、能、點、頭、て、足、下、の、主、意、宣、不、理、も、事、一、旦、の、恥、と、為、り、て、狗、死、と、ん、ん、大、丈、夫、の、本、意、を、  
あ、ま、快、落、の、卒、共、侶、不、と、悄、語、ら、鎧、を、脱、棄、て、落、る、躬、方、の、雜、兵、の、中、に、交、り、後、門、に、出、ま、り、往、  
方、も、知、ら、ず、り、け、り、然、ら、ぬ、夜、の、戦、に、城、内、の、主、卒、都、て、五、六、百、名、僅、命、を、免、れ、二、百、名、過、ぎ、な、く、あ、の、  
它、の、賊、徒、不、數、を、捕、ら、れ、る、血、流、れ、て、盾、を、流、し、屍、を、積、り、て、累、を、こ、り、恸、而、百、多、の、天、明、に、素、藤、と、先、士、  
卒、の、城、の、四、門、を、守、ら、ず、首、實、檢、と、ま、り、宗、徒、の、城、兵、田、稅、逸、時、登、桐、良、千、景、能、の、幾、回、も、落、亡、  
た、り、け、れ、ん、と、思、ふ、首、級、の、あ、ら、單、登、桐、山、八、郎、良、千、願、八、盆、作、が、隊、を、生、拘、り、て、重、索、楯、を、雜、兵、牽、り、

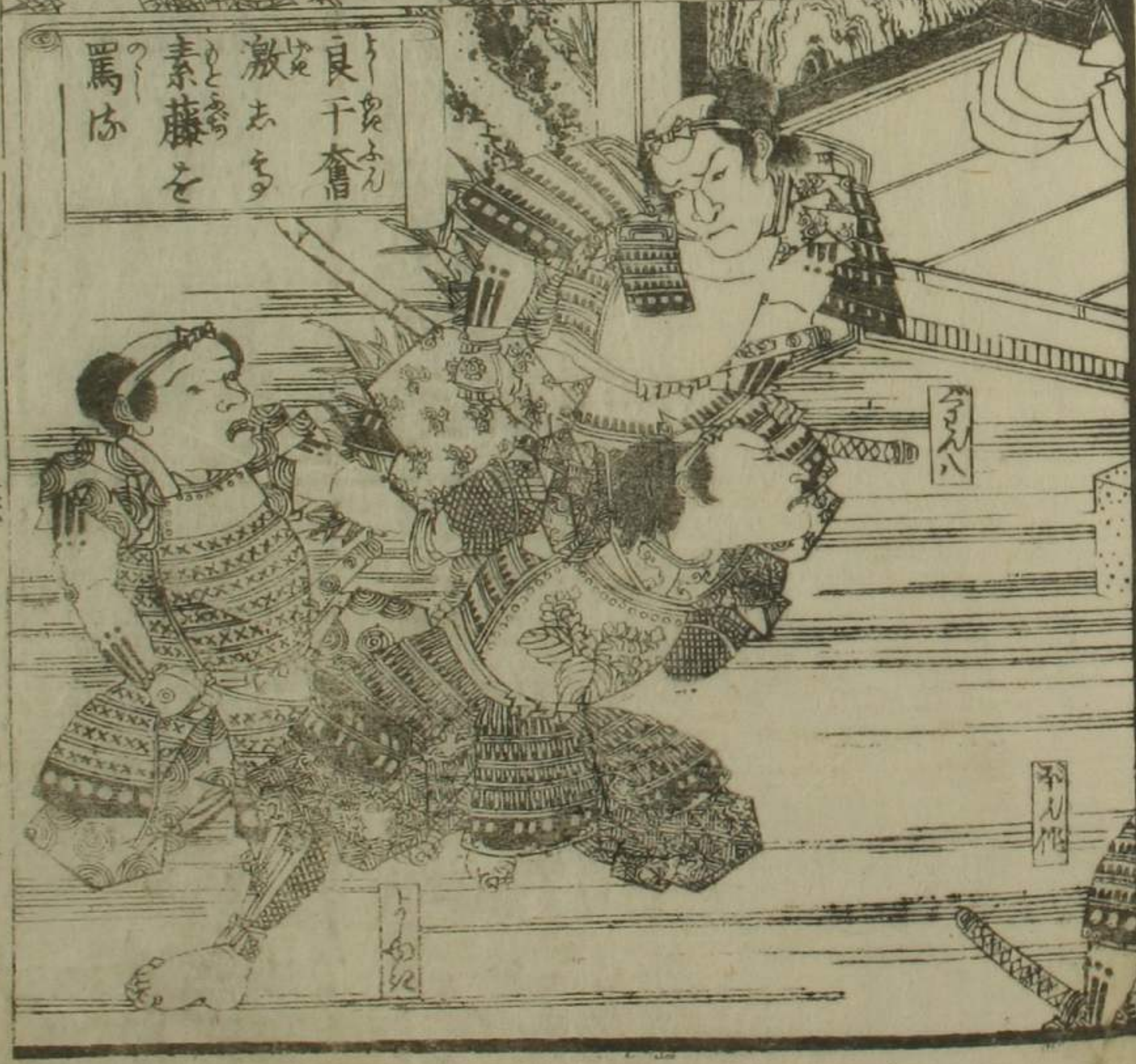
廣庭不推居り。當下墓田素藤の發見不尻より撰る。左右本膳碗九郎以下の兎黨の侍  
 ら七意氣揚々たる面色あり。良干は佐と見て爾の登相山欲謹て我の事と听け原這城地の我  
 兵を以て自然と得る所を義成の城の中は且我が年の末里見の忠あり功ありし我成敢その美を  
 思ひも慢我を侮りし事遂不干及びて御堂籠城する折那大江親兵衛が幻術を眩惑せしむ  
 一旦俘ふよりか我英雄と虚せざる天の恵神の助あり。故に義成の我を誅すに克んで士卒と俱不  
 追放ちあはれど我又来て亦我城の據るもの。練兵三十餘日の内は。數千の士卒を聚令。會社言の  
 恥を雪めたる武畧の胆を洗れ。志を傾けて今も我に従ひ功あり折軍を用ひ侍ても命の惜しむを  
 といへも果さ良干の眼と瞳。一聲ゆり立てを我素藤過言介の原是刑餘の山賊早業奸計を  
 旋らて小鞠谷の所領を奪令りたる悪逆首露れし。人食れを知らる。況國主恩不叛  
 於て御曹司と捕りたり。虎狼蛇蝎の威を振ひし我神童大江が為。若們兎黨數を盡し。既も俘  
 せられ大江親兵衛が意見より。國主仁慈如來小僧。首を續し。虎狼の心を以て

事今及ふとも。國主の大軍を向の朝日霜の解る像。誰一人も漏さる。兎覺期とせよと勇士の奮  
 激思ひの隨不罵れ。素藤勃然と怒り。其奴甚無礼。先舌引拔。快きと。敦圍死しを  
 妙椿まで遠く。屏風の背も走出て素藤と諫め。良干が非礼過言最憎む。怒りも。怒不無  
 志て殺す要る。姑且獄舎を繋ぎ。志を改め。許く用いぬ。又日を経ても歸伏せぬ。折誅戮せられ  
 んの。言の短慮不ゆる。やと。素藤怒り鎮めて。現他。然る者。萬卒の得易くて。一將の極て獲る  
 兵毎をの良干と。素藤互に。獄舎を繋ぎ。由断り。令り。脱し。と言語急迫。下知。後賊兵の  
 兼の。及。各。躬。良干の。索。令。縮。て。牽。丸。も。良干。は。罵。り。已。ま。ず。聲。喝。を。も。哮。り。し。本。膳。碗  
 九以下の兎黨。す。く。の。堪。不。自。注。し。く。の。憎。し。と。吐。け。たり。悠。て。又。素。藤。の。御。堂。夷。瀆。の。軍。民。の。強。顔。く  
 當り。報。不。も。礪。時。願。八。平。張。金。作。の。居。屋。の。雜。兵。を。従。て。普。善。蘇。利。の。諸。村。遣。し。御。向。出。し  
 遣。れる。兎。黨。の。妻。子。は。初。城。内。に。在。り。し。在。り。し。管。年。少。く。顔。美。し。く。威。令。入。れて。賊。徒。不  
 這。回。の。賞。不。取。せ。又。後。堂。も。召。入。れて。妙。椿。の。使用。を。又。只。此。の。もの。を。豪。民。を。催。促。し。戰。軍。要。金。を



逸時景能脱虎口  
トモトキノシゲノリウ

八尺專几屏吳下



良干奮  
 激志多  
 素藤を  
 罵依

共

文彦堂藏



八尺傳大車着

天江道藏

謙合り又十六歳より五十歳まで。民三百を城內に驅入れて都て軍役小使ひ、其勢六十  
 百より、武田信隆千代丸豊俊の殘黨の尙近郡、潛居する。其後藤復起り、又知らて、而世  
 都て六百餘名、野暮、砂、鴉、太、仙、駝、麻、吉、如、と、喚、做、主、者、と、頭、人、と、し、會、館、山、城、を、素、藤、の、隊、の  
 屬、と、し、素、藤、勢、の、壯、勇、と、て、敢、闘、主、と、し、憚、ら、ず、隨、即、妙、橋、を、軍、師、と、し、天、助、尼、公、を、軍、師、と、し、軍、議、の  
 外、後、堂、を、受、け、と、し、夫、人、の、似、く、夜、の、悄、々、地、枕、を、並、て、と、る、徒、の、思、え、と、蓋、せ、せ、却、願、八、盆、作、本、膳、  
 碗、九、郎、小、祿、と、し、之、を、授、け、て、重、用、始、り、弥、倍、と、し、六、件、の、四、虎、素、藤、は、舊、り、て、美、濃、の、豪、民、の  
 米、錢、を、責、令、し、し、尙、推、辭、む、者、を、あ、れ、立、地、小、推、寄、せ、屋、廬、を、破、却、し、資、財、を、奪、ふ、狂、妨、淫、ら、り、  
 豪、民、の、驚、を、懼、れ、懼、れ、僅、小、宅、着、て、携、て、逃、れ、他、郷、走、る、も、多、し、然、り、近、郡、騷、動、を、風、聲、耳、今、朝、上、り、  
 買、吊、く、楢、村、注、進、の、人、馬、櫛、の、齒、を、挽、く、像、將、門、叛、て、東、路、の、風、噪、純、友、起、り、西、海、の、浪、暴、  
 かり、も、徳、あり、然、と、思、可、の、人、心、沾、る、る、の、單、表、上、總、の、殿、臺、を、八、幡、誦、訪、三、村、神、主、  
 梶、野、葉、門、の、隔、昨、上、總、へ、還、る、を、許、し、て、昨、日、殿、臺、を、宿、所、歸、着、り、し、は、あ、の、夜、館、山、の、

城、凶、變、あり、間、近、の、所、の、素、藤、が、再、叛、り、て、件、の、城、を、攻、累、り、と、の、風、聲、耳、と、を、詰、且、甲、乙、俱、小、少、  
 知、り、て、駭、く、又、天、々、々、々、素、藤、又、館、山、城、を、據、り、て、猛、威、を、振、り、御、我、們、が、逸、早、く、國、主、注、進、を、  
 たり、と、憎、み、て、必、害、を、あ、ん、今、番、も、多、く、楢、村、へ、走、り、多、かり、度、の、趣、に、注、進、を、く、且、那、里、に、在、留、と、  
 賊、徒、の、害、を、免、る、べ、れ、と、示、し、合、た、る、共、侶、も、其、の、見、聞、宿、所、を、出、て、勉、て、路、次、を、た、り、と、道、回、と、又、  
 楢、村、へ、注、進、の、第一、番、也、其、の、忠、告、を、賞、せ、れ、則、他、們、が、願、ひ、の、ま、く、城、內、に、留、置、し、程、小、刃、々、  
 より、注、進、を、く、又、館、山、の、方、の、城、兵、の、數、も、漏、れ、た、二、百、許、名、漸、々、小、脱、れ、來、て、報、を、聞、く、  
 昨夜、墓、田、素、藤、の、城、を、落、さ、れ、る、事、の、顛、末、城、の、頭、人、登、桐、山、八、良、下、の、生、拘、ら、し、田、稅、逸、時、日、屋、  
 景、能、を、落、し、し、あ、る、戰、役、せ、り、然、る、存、亡、を、詳、る、と、賊、徒、の、數、子、の、大、勢、也、郭、內、錐、を、立、地、  
 る、八、面、咸、敵、り、し、其、似、き、の、小、と、縶、入、れ、ら、し、第二、郭、也、起、り、た、り、ま、音、も、せ、た、城、の、士、卒、の、夢、  
 た、も、れ、を、知、る、是、故、小、度、を、喪、ひ、て、落、城、也、及、び、又、其、の、甲、夜、より、猛、風、起、り、て、兵、庫、を、壞、ら、れ、其、頭、  
 の、ま、で、具、る、衆、口、錯、り、た、君、臣、上、下、驚、に、呆、れ、て、既、小、評、議、區、を、考、ふる、義、成、王、昨、夜、の、猛、可、小、脚、

疾の醫師們脈と診多。あを脚氣くわきとてしめて。隨即連ついでの湯茶ゆぢやを薦めまわす。折やへけを  
 評議の席へ出るを。先上總の諸城主へ脚教書と遣つかすべしとて。その書あやの載のりられ。一個條いっとうじょうの素藤再  
 叛の事あり。いふとも。各先度あひだの如く城を守りて。勤うごくべし。此こゝより征伐せいばつの使つかも。速すみに誅戮しゆりやくす。軍兵ぐんべい那里の  
 在陣まゐの間。備戰米べいせんまいの所要すいようあか。その折下知おろし隨したがて。本陣ほんじんへ運送うんそうせられ。よと示しまを。諸方しよほうへ急脚きやくの使者しやと  
 部ぶして。その日齊ひら當城あてと。半遣はんぢのゆけり。徳とく又義成ぎせい主ぬし杉倉すぎくら氏うぢ元堀もとほり内貞うちさだの東辰相とうしんさう荒川清澄あらかはひらさと  
 俱とも四個よつこの老黨らうたうと便べん宰相しやうざい寄よせ。然而しかん宣のたまふ。今番こんばん素藤すとうを再叛またかへの賊徒ぞくた大勢おほしといふ。先度せんどの  
 と合あはれ。人質ひとぢの憂うれひも。我速われすみに打向うちむかふ。那城なぢやうを攻落せ。素藤すとう并ならび兇黨けうたうを誅ころせし。と斬きる  
 へ死しせ。我身われみも昨きのう今病いまぢやう着かれ。馬うまも乗のりる不便ふべん。然しかば。我病われぢやう着かる。瘡かさを等らしく。賊徒ぞくたの  
 勢いきひ漏もれ。民たみの途炭とたん及びおよびせん。汝達なんぢら各意おのづか見みあ。尊たうまへ。とぞ仰おほけ。這回このたびも。盡つくさ。も。楮  
 數かずあ。不定限ふぢやうげんの是これより。下の話説わがはなし。又卷またまきを更かめて。第一百十二回ひゃくにじゅうにかい。解とけ。を聽きぬ。か。し。

南總里見八代傳第九輯卷之十終

